



たかせりクリニック
高瀬 義昌 先生

- 信州大学医学部卒業
- 東京医科大学大学院修了（医学博士）
- 麻酔科・小児科を経て、包括的医療（家庭医学）・家族療法の実践を重ねる
- 2004年、東京都大田区に在宅医療を中心とした「たかせりクリニック」を開業
- 延べ約1,500名の在宅療養支援に携わり、認知症では家族支援と薬物治療の最適化を両輪に在宅生活の継続と安全を支える
- 厚生労働省事業、東京都・大田区の地域包括ケア/介護関連事業の委員等を務め、地域の認知症支援体制づくりに参画

①オレンジドクターの活動内容

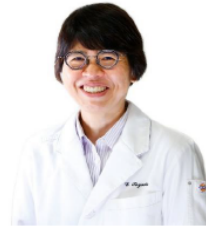
地域包括支援センター等と連携し、認知症のある方・ご家族の相談支援、受診・訪問診療につなぐ医療連携、BPSDを含む困難事例の支援に取り組んでいます。必要時には多職種と協働し、在宅継続に向けた支援（家族支援、危機介入、医療・介護資源の調整）を行います。

令和7年度には「おたの地域見守りネットワーク」主催の健康イベントで「認知症を過ぎる毎日の習慣」について講演を行う等、認知症ケアの最新情報を地域住民に浸透させる活動にも尽力しました。

②地域包括支援センターとの連携について

地域包括支援センター、ケアマネジャー、訪問看護・介護、デイ/ショート等と顔の見える関係を構築し、情報共有と役割分担のもとで支援を進めています。特に、家族の負担軽減と安全確保を軸に、状況に応じた医療介入と支援体制の組み直しを行い、地域で支える仕組みの強化を目指しています。

また、NPO法人「オレンジアクト」の理事長として、大田区高齢福祉課、各地域包括支援センターと連携し、「認知症サポーター養成講座」「認知症サポーターステップアップ講座」の開催事務局を担当して地域に根ざした認知症・MCI啓発活動を支援しています。



いずみホームケアクリニック
豊田 千純子 先生

- 1995年 東京慈恵会医科大学卒業
- 2015年 東京慈恵会医科大学神経内科准教授
- 2018年 いずみホームケアクリニック認知症疾患医療センター 副センター長
- 2023年 医療法人社団東京東双泉会いずみホームケアクリニック 院長
- 2024年 いずみホームケアクリニック認知症疾患医療センター センター長

資格：日本神経学会専門医・指導医、日本認知症学会専門医、認知症サポート医、とうきょうオレンジドクター

①オレンジドクターの活動内容

2018年より葛飾区認知症初期集中支援チーム員として葛飾区内の困難事例に携わっています。

2021年と2024年には、葛飾区医師会 学びの広場にて「認知症予防 できることからはじめよう！」「もしかして認知症?!」に出演しています。また、地域住民向け活動として2023年より葛飾区内小中学校にて出前授業「認知症のことを知ろう」（未来の地域を担う子供たちへの啓発活動）を開始しました。その他、当院家族会や図書館、地域包括支援センターにてコグニサイズの紹介、認知症についての講演を開催するなど認知症の共生と予防を目指しています。

②地域包括支援センターとの連携について

葛飾区は地域包括支援センター主催のもの忘れ相談会があり、地域包括支援センターと認知症サポート医の連携体制が整っています。オレンジドクター制度により地域包括支援センターとの連携がより強固になり、医療・介護・福祉の多職種連携も構築されつつあります。困難事例の相談を受け診療後の情報共有を行い途切れないケアが行えるように、介護保険の申請や成年後見申請などにも迅速に対応できるよう協働しています。



(医社)鼻社会 西田医院
西田 伸一 先生

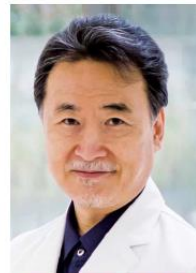
- 1985年帝京大学医学部卒業、同大学救命救急センター入局。16年間救急医療に従事した後、2000年に西田医院を継承。午前は外来診療、午後は訪問診療に加え医師会活動を行っている。
- 2014年より近所の公団住宅の集会場を利用し「しばさきオレンジカフェ」を開業。
- 2014年以降、市内の有志と共に、市民への認知症理解促進を目的とした地域活動を継続している。
- 2019年より医院の隣の空き家を活用した地域の集いの場「しばさき彩ステーション」を常設し運営。

①オレンジドクターの活動内容

外来診療において認知症相談を行うと同時に、午後の往診時間を活用して外来受診できない認知症のある方への定期訪問や依頼に応じて往診などを行っています。また東京都医師会理事として「認知症サポート医連絡協議会」を担当し「とうきょうオレンジドクター」認定制度の推進に関わっています。地域では任意団体「ちょうふ認知症支えあう輪」代表として活動し、講演会や映画上映などを通して認知症理解促進に努めています。令和8年4月には調布市行政、調布市社会福祉協議会共催で市の認知症サポーターや大学生などを対象とした「アクション・ミーティング」を開催する予定です。

②地域包括支援センターとの連携について

近所の地域包括支援センターと定期的な協議の場を設け、地域で困っておられる認知症のある方への支援等について協議し、必要に応じて医療提供や介護保険申請や介護サービスへの助言等を行っています。また本院主催の上記活動に地域包括支援センターの助力をお願いし、協力しながら地域貢献を目指しています。



ねりま健育会病院
酒向 正春 先生

- 1987年愛媛大学医学部卒業
- 日本脳卒中学会・日本リハビリテーション学会・日本認知症学会専門医・指導医、日本脳神経外科学会専門医
- 愛媛大学病院脳神経外科、オーフス大学脳神経病態生理学研究所で脳神経外科・脳卒中治療と脳科学研究に従事。2004年より脳科学リハビリテーション医に転向
- 2017年よりねりま健育会病院長、ライフサポートねりま管理者として、攻めのリハビリテーション医療と要介護者の回復治療を推進、同年練馬区医師会で地域医療の推進に取り組む

①オレンジドクターの活動内容

当施設は認知機能低下の予防活動「ねりま健幸学園」を促進して、認知症患者には外来診断治療後にかかりつけ医に紹介します。必要な時は回復期リハビリ療や超強化型老健で入所リハビリ治療を行い、人間力を回復して自宅退院を促進しています。自宅退院後は外来リハ、通所リハ、訪問リハを提供して伴走します。終末期は、希望者には入所で看取り対応も可能です。

一方、認知症になっても地域で安心して暮らせるまちづくり活動を練馬区や東京都内、全国で推進しています。

②地域包括支援センターとの連携について

オレンジドクター制度はまだ活用できておりませんが、地域包括支援センターとは顔の見える形で情報交換を行って迅速に対応しております。認知症のある方への診療及び入退院支援、運転免許更新に係る診断書作成、成年後見に係る診断書作成は迅速に対応します。地方自治体が主催する認知症関連の会議体への参加、地域包括支援センターからの相談対応、地域の認知症カフェ等での認知症のある人と家族介護者等を対象とした取組への参加、地域住民向け講演会や全国のも多職種向け研修等への協力を講師として参加しております。



医療法人社団 青山会
青木病院
青木 誠 先生

■1987年 帝京大学医学部卒業
日本脳神経外科学会認定専門医
日本脳神経血管内治療学会元専門医

■2004年 特定医療法人社団青山会青木病院入職後は精神科の身体合併症や高次脳機能障害および認知症を診療してきた。

■2015年 青木病院が地域連携型認知症疾患医療センターの指定を受け、同センター長に就任

資格：認知症ケア専門士・日本脳神経外科認知症学会認定医

①オレンジドクターの活動内容

青木病院では認知症に関わる患者さんが毎年 150～200 人ほど入院（2025年は184人）されますが、内科病棟・認知症治療病棟・精神科病棟の全ての病床で患者さんの状況に対応しつつ可及的速やかにお引き受けし、精神科と内科系の医師で治療に当たり、その後の退院調整などには自分を含めた6名のオレンジドクターも精神保健福祉士と共に参加しています。調布市の認知症初期集中支援事業では、青木病院に設置された1チームのみの支援チームで対応していますが、所属オレンジドクター6名中5名がチーム研修を受けており、病院からであれば医師が交代で適時の訪問や関係者会議に参加出来る利点があります。

②地域包括支援センターとの連携について

前述の通り、入院調整や認知症初期集中支援チームとして日頃から密接な関係を保っています。もともと調布市は顔の見える多職種連携がとても良く構築されており、地域包括支援センターが開く地域ケア会議や認知症疾患医療センターが主催するイベントにも、講師を含め交互に積極的に参加していて、地域包括支援センターとの連携にストレスを感じることはありません。



芝浦アイランド内科クリニック
安田 淳 先生

■東京慈恵会医科大学医学部卒業
■総合内科専門医・リウマチ専門医の専門資格を取得
■東京慈恵会医科大学附属病院、富士市立中央病院、伊豆保健医療センターなどで地域医療に従事
■2008年に芝浦アイランド内科クリニックを開院し、地域医療に携わる
■2013年より東京都港区医師会等の団体に地域医療・在宅医療の推進に取り組む

①オレンジドクターの活動内容

東京都港区医師会の在宅医療に関わる理事として認知症サポート医の資格を取得後、港区保健福祉支援部と共同して港区の認知症施策に深く関わってきました。

②認知症施策の取組状況について

港区では、認知症と共生する地域づくりを目指し、普及啓発、早期発見・早期対応、地域支援体制の整備を柱とした施策を推進しています。医師や当事者・家族による講演会やフォーラムの開催、認知症サポーター養成講座の拡充などにより、区民の理解促進を図っています。また、港区医師会と連携した認知症セルフチェックシート健診や認知症支援コーディネーターによる個別支援により、早期発見・早期対応を進めています。さらに、オレンジカフェやチームオレンジなど、認知症のある人や家族が地域の中で役割を持ちながら安心して暮らせる共生社会の実現に向けた取組を進めています。



(医社)エキップ
みわ内科クリニック
三輪 隆子 先生

■信州大学医学部卒業
■認定内科医・神経内科専門医
■信州大学付属病院、佐久総合病院、東京都立神経病院、狭山神経内科病院で神経疾患や難病の診療に従事
■国立身体障害者リハビリテーションセンター病院で高次脳機能障害診療経験を積み
■2007年 みわ内科クリニックを開院し、地域医療に携わる
■2023年より西東京市医師会長に就任

①オレンジドクターの活動内容

地域包括支援センターの方々と協力し、認知症のある方やご家族、地域住民が気軽に集える「オレンジカフェ」を西東京市ではじめて立ち上げました。カフェでは、医師や多職種、認知症サポーターであるボランティアが連携し、情報提供や相談対応を行っています。

認知症サポート医として認知症初期集中支援チームや市の認知症検診検討委員会に参加し西東京市の認知症対策の実践に取り組んでいます。

②地域包括支援センターとの連携について

地域包括支援センターからは、困難事例の医療の問題があるかどうかの相談や受診拒否などあるときの訪問に加えて、複合問題ケースなどの会議への参加や当事者目線の地域でのイベントなどの企画や参加を求められています。オレンジカフェの活動を通して地域包括支援センターの認知症地域支援推進員と密な連携が取れていますが、気軽に連絡ができる場としてMCSでグループを作成しました。そこでは、当院の二人のオレンジドクターと地域包括の職員が参加しています。

※MCS：全国の医療介護現場で利用できる地域包括ケア・多職種連携のためのコミュニケーションツールのことです。



石井病院
石井 良幸 先生

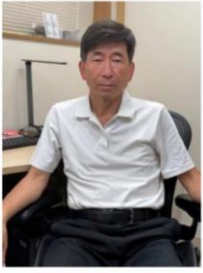
■日本大学医学部卒業
■頭部以外の心臓・呼吸器・消化器・乳腺内分泌・末梢血管・形成外科・一般外科習得を標榜する同大学第2外科に入局
■週1回の研究日には脳神経外科病院に出張
■川口市市民病院、大宮医師会病院では外科手術など担当（蕨崎市市民病院・志木市立救急市民病院では血管外科のみならず、整形外科・形成外科手術も多数行い、全身を診られる医師と自負しております。）
■2000年5月 立川市に石井医院を開院し、地域医療に携わる
■以後、初診から終末期医療までの継続医療を行うべく、地元のかかりつけ医として、自身で診ていた患者さんは、自身で看取るという信念で地域医療に従事している

①オレンジドクターの活動内容

開業当初からの患者さんたちが、認知症になったり、来院が困難になってきており、介護保険の導入も増え、同時に地域包括、ケアマネとの接触機会も増えてきました。医療保険と介護保険は車の両輪のように一緒に回すことが重要であると以前から痛感してありました。ちょうどその頃、オレンジドクターの申請書の「医師と都内の地域包括支援センターとの間で結んだ合意書」という一文が目につき、深い意味も考えずに申請し、立川市で第1号のオレンジドクターになり活動しております。積極的に包括やケアマネと接触を図り、にんカフェ・講演の他に、機会あれば、ケアマネを数名集め、小さな勉強会の開催などをしております。

②地域包括支援センターとの連携について

この制度を運営するにあたっては、オレンジドクターはあくまでも「認知症サポート医」制度の一つの呼称とのこと。つまり、都として実際に、行政・医師会・包括の3者を円滑に回すための明確な組織図も含め、構築が必要と感じております。今後、フレイルサポートドクター制度も導入するようになれば、その制度との連携も含め、縦だけでなく横の連携が重要になってくると考えます。そのためには具体的に、1. 「医師の関与の型」を明文化する、2. 医師会内での「認知症チームの立ち上げ」（認知症サポート医・オレンジドクター・フレイルドクターなどこれらを一につにする組織づくり）、3. ケアマネ・包括との信頼関係の構築（助言や同行支援を柔軟に行う体制を構築すると同時に、ケアマネの方々に対する医療面での教育・指導の支援を行う。これは、医師会を過ぎずとも、オレンジドクターと直接、簡単に接触できる関係を構築することを意味する。）、4. 行政側の制度作成（先の、認知症サポート医・フレイルドクターとの関係の整理などの可視化されたものを作成）などが今後必要になると考えています。



吉野内科クリニック
吉野 正俊 先生

- 金沢大学医学部卒業
医学博士、内科認定医、脳神経内科専門医
- 2007年 吉野内科クリニックを開設し、
地域医療に従事
- 2015年より板橋区医師会理事として神経
難病や認知症の対応を柱とした地域医療の推
進に寄与

①オレンジドクターの活動内容

板橋区の事業である「もの忘れ相談」に相談医として対応しており、発足から10年経過した「認知症初期集中支援事業」における支援チームに参加し地域における認知症ケアの質向上を目指しています。

2025年9月には連携する地域包括支援センターの主催で「認知症になっても住み慣れた自宅で」をテーマとして、地域住民や介護職を対象としての講演を行いました。

②地域包括支援センターとの連携について

認知症サポート医の中でも、とくに地域包括支援センターなどの地域の関係機関と密接に連携して活動できる医師がオレンジドクターに指定されるといふ点では、板橋区ではその称号に値するドクターが多く潜在すると感じています。今後とも地域の関係機関との更なる連携を通して、住民・医療・介護・行政が繋がる共生社会づくりを目指していきたいと思ひます。